

【きょうのめあて】 6は いくつと いくつに なるか かんがえよう

さんすう

5がつ8にち (きんようび)

きょうかしょ22・23ページ
「いくつと いくつ」

めあてについて

今日から「いくつと いくつ」という単元について学習していきます。

6・7・8・9・10のそれぞれの数字を合成・分解できることが目標です。

合成とは、「2と4で6」のように、2と4を合わせて6と見る場合のこと、

分解とは、「6は2と4」のように、6を2と4に分けて見る場合のことをいいます。



この単元は、たし算やひき算の学習を行う上でも重要となってきますので、ゆっくり丁寧に取り組んでいきたいと思います。

今日は、6の合成・分解について学習します。

よろしくお願いいたします。

活動① ●おうちの ひとと ゲームをしよう。

(手順)

① さんすう ぶろっくを6つ用意し、「ここにブロックが6つあります。」と言う。



② 6つのブロックを手の中で振り、右手と左手に分ける。



③ 片方にあるブロックを見せて、「右手にはいくつあるでしょう」と聞く。(答え：3)



④ ①～③をくり返す。

☆ポイント☆ ゲームが1回終わるごとに、
「6は3と3で分けられます。」と、
「いくつといくつに分けられる」のか言葉にしてあげてください。
難しい場合は、お子さんにもブロックを6つ渡し、おうちの人と同じようにやってみるようにしてあげてください。
手の中にいくつあるか想像しやすくなります。

☆6の合成・分解は、

- ①「6は1と5に分けられます。」
- ②「6は2と4に分けられます。」
- ③「6は3と3に分けられます。」
- ④「6は4と2に分けられます。」
- ⑤「6は5と1に分けられます。」

の5つのパターンです。

ゲームを通して、この5つのパターンしかないということに子どもたちが自分で気づき、暗記するほど行っていただけたら嬉しいです。

繰り返すほど、答えるスピードも速くなっていきますので、「すごいね!」「はやいね!」とほめてあげてください。

活動② ●きょうかしの 23ページを ひらけましょう。

もんだい②を しましょう。

(「ブロックをいくつといくつに分けているかな。」と聞き、教科書の例：1と5のように口のに数字をえんぴつで書きます。)

応用編

「6は1と5に分けられます。」と おうちの ひとと となえよう。

(手順)

- ① おうちの方が「6は1と…」でとまる。
- ② お子さんが「5に分けられます」と答える
- ③ ①②ををいろんなパターンで行っていく。

☆ポイント☆ おうちの方が「6は1と…」と言ったときに、  のブロックを頭の中に思い浮かべてることが大切です。

最初は、教科書の問題②のブロックの図を見ながら答えたり、実際にさんすう ぶろっくを並べたりながら行ってもいいですね。

今日の学習は以上です。ありがとうございました。